

令和7年度第2回おおいた子ども・子育て応援県民会議 議事録

日時：令和7年10月8日(水)14:00～16:00

場所：大分県庁 本館2階 正庁ホール

事務局 皆様こんにちは。本日の会議の進行を務めますこども未来課の上田と申します、よろしくお願いいたします。本日の会議は公開で行うこととしており一般の方の傍聴席、報道席を設けておりますことをご了承ください。議事録資料につきましても、原則として後日すべて県庁ホームページに掲載いたします。

定刻より少し早いですが、皆さんおそろいですので始めさせていただきます。ただいまから令和7年度第2回おおいた子ども・子育て応援県民会議を開会いたします。本日は28名中27名の委員の方にご出席いただいております、定足数である過半数を満たしておりますことをご報告いたします。続きまして佐藤知事よりご挨拶申し上げます。

佐藤知事 皆様、こんにちは。大分県知事、佐藤でございます。令和7年度第2回目のおおいた子ども・子育て応援県民会議に大変お忙しい中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。清國会長をはじめ、皆様には大分県政の推進、とりわけこども・子育て施策の推進に対しまして、ご支援ご協力ご提言を賜っておりますことに対しまして、改めて心から感謝申し上げます。前回の会議で、こどもの居場所づくりや、産後ケア、ヤングケアラー、医療的ケア児への対応など、いろいろと貴重なご意見をいただきました。それぞれの子育て家庭が置かれている状況が大変異なっておりますけれども、各家庭の個別の多様なニーズに応じた効果的な情報発信が必要であるというご提言をいただきまして、今回の会議ではその点についての議論をさらに深めていただければと考えております。また、チラシもお配りしておりますけれども今、こども食堂の支援クラウドファンディングを実施しており、11月28日までの実施ということですが、昨年度は573万円の温かいご支援をいただきました。県内のこども食堂の運営に活用をしていただいております、現在161ヶ所のこども食堂がございますが、食事だけでなく、学習支援や多世代の交流など大変貴重な、かけがえのない居場所となっていますので、ぜひ委員の皆様方にも、周知などご協力を賜ればありがたく思う次第でございます。委員の皆様方からの様々なご意見ご提言をしっかりと踏まえながら、子育て満足度日本一の実現に向けて取り組んで参りたいと考えておりますので、何卒それぞれのご専門のお立場から、幅広い見識そして活発なご議論を賜りますように、心からお願いを申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

事務局 ありがとうございます。それでは以降の議事進行は議長であります、清國会長にお願いいたします。

清國会長 それでは次第に従って進行させていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。まず大まかな時間配分をご説明申し上げます。最初に行行政説明を10分ほどいただきまして、それから2番目の意見交換を100分程度ということで予定をしております。16時には閉会をしたいというふうに思っておりますので、委員の皆様方のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。そういたしましたら1のですね、大分県における子育て支援情報の発信について事務局よりご説明をお願いいたします。

鈴木課長 大分県こども未来課長の鈴木でございます。よろしくお願いいたします。
タブレットの資料1をお開きください。もし、タブレット不調がございましたら手を挙げていただければ職員がお伺いいたしますのでよろしくお願いいたします。それでは資料1の1ページをお開きいただきたいと思います。1ページでは、県が毎年行っている、こども・子育て県民意識調査の令和6年度調査結果の1項目を載せています。就学前の児童の保護者が子育てに関する情報の入手先として希望するものをお聞きしております。下段のグラフのとおり、1位2位は、保育所や幼稚園、親族となっております。また、赤囲みでお示しをしているとおり、SNSやインターネット、子育て支援サイト、行政のホームページからの情報入手も上位となっているところでございます。2ページをお願いいたします。先ほどの調査を小学生の保護者にも行っております。未就学児の保護者との違いでは、近所の人、知人、友人の項目が4位から2位へと上昇しており、割合も高くなっています。また、逆に3位であったSNSが6位に順位を落としているところです。3ページをお開きください。県の子育て情報の発信について、出会い・結婚、妊娠・出産、子育てのライフステージごとに主なものを一覧として並べております。色塗りしている項目につきましては、後程個別にご説明する項目でございます。上段の出会い・結婚では、結婚を希望する方々、またそれを後押しいただきたい方々への気運醸成にはテレビ広告を、また出会いサポートセンターの入会の促進には、20代30代の方々がよく利用するWeb広告を多くしているところでございます。その下から次のページにかけて、妊娠・出産のステージでは、制度や相談先を知っていただきたいということから、ホームページの他、アプリを活用したプッシュ型通知、市町村の窓口での各種手続き時にチラシや啓発本の配布等を行っているところでございます。4ページ下段の子育て期は、市町村のホームページとも連携したポータルサイト「子育てのタネ」の運営や、下から2つ目のひとり親家庭への支援の周知では、ハンドブックの配布等も行っているところでございます。5ページをお開きください。出会いサポートセンターの広報です。左下Me t a広告とあります。これはInstagramやFacebook等の広告でございますが、大分県内の方はInstagramの利用頻度が全国で一番高いとの調査結果もありますのでより届きやすいように、そのような媒体での広報に重点を置いているところでございます。6ページをお開きください。母子保健アプリ「母子モ」です。右下をご覧ください。未就学児の保護者を対象としており、令和6年度は県から子育て支援イベント情報等を79回配信しており、市町村からは健診や予防接種等の情報がお知らせされているところでございます。現在2万人の方に登録をいただいております、県内全市町村で導入がなされているところでございます。7ページをお開きください。子育て支援ポータルサイト「子育てのタネ」です。県では、講演やイベント等お出かけ情報や子育て支援サービスを利用した感想等、サービスについてより掘り下げた情報の提供を行っております。市町村では子育てサービスの利用につなげておまして、ポータルサイトとして検索機能を充実させて昨年度は7万7000件のアクセスをいただいているところでございます。8ページをお開きください。おおいたこどもまんなか応援キャンペーンでございます。一番上目的欄のとおり、子育て支援の取り組みの発信により、サービスの認知度の向上、利用促進を目的に製作本数欄に記載のとおり、産後ケア、ファミリーサポートセンター、地域子育て支援拠点、放課後児童クラブ等の動画を制作し11月からWeb広告を行うこととしております。

三重野課長 9ページをご覧ください。こども・家庭支援課の三重野でございます。左下、ひとり親家庭のハンドブックですが、私が今手に持っていますけど、前回皆さんにも一部ずつお配りしました。この小冊子、各ひとり親家庭の方が受けるサービス

を一覧にして毎年度更新している冊子でございます。実は県内に1万世帯、ひとり親世帯がいるのですがその方々に対しては、例えば大分市などでは離婚届を提出したときに、手続きの必要な課を紹介して、その中で子育て支援課で1人ずつ手渡ししている状況でございます。そのように今ひとり親家庭の方にはこのサービスを届けているわけなのですが、1つこれから離婚を考えようとしている方についても有用な情報だと思っています。そういう方にいかにして届けるかっていうところをまた今後アイデアをいただければ幸いです。以上です。

鈴木課長 10 ページをお開きください。これから実際に配信している素材をご覧ください。初めに、出会いサポートセンター入会促進キャンペーンと促進のためのテレビCM15秒でございますが、前のスクリーンをご覧ください、お願いいたします。

-----動画-----

次に妊活応援健診費、不妊治療の関係でございますが、制度周知をするためにYouTubeで配信しております。動画15秒でございます。

-----動画-----

3番目は共育で・父親の子育て参画の普及啓発のために、LINE広告等を行っている動画でございます。この動画につきましては、こどもが寝ているときでも視聴できるようにあえて音声を入れていない動画となっております。

-----動画-----

最後になりますけれども、保育園の働き方改革をモデル園ごとに動画を作成いたしました。これは保育士確保のための高校の出前講座や、各研修等で活用しているもので一部の1分ほどでございますがご覧ください。

-----動画-----

動画をご視聴いただくのは以上4本でございます。なお机上には、各種チラシや啓発本を封筒の中にご準備させていただいております。それともう1点、全国トップクラスの子育て支援というこちらのチラシを準備しております。このチラシにつきましては、県外事務所等を通じて大分県への移住を考えている方々に、広く周知を図ることを目的に作成しておりますものでございます。説明につきましては以上でございます。

清國会長 どうもありがとうございました。様々な工夫をされながら、こどもを育てやすい大分県に向けてですね、ご努力をされていることがよく伝わって参りました、ありがとうございました。それではただいまの事務局によるご説明がございましたがそれも含めてですね、これから意見交換の時間に移らせていただきたいと思います。事前にいただいたご意見につきましては、資料2の方に記載をされておりますので、そちらの方をご参照ください。それではご発言をお願いしたいと思うんですけれども委員の皆様の数からするとですね、だいたい三分ぐらいがご発言の目安かなあというふうに思いますので、そのあたりできるだけ多くの皆さんがご発言をいただけるよ

うにご配慮いただきますと幸いです。ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。今回は前回とは違いまして、順番にというよりは挙手をいただいてご発言をいただくようにさせていただこうというふうに思いますので、最初は言いづらいかもしれませんが、われこそはという方挙手をいただきまして、ご発言を始めていただければというふうに思います。いかがでしょうか、それでは先生お願いします。

相澤委員 前回欠席をしまして今回初めてなんですけど、相澤と申します、どうぞよろしくお願いします。私大分大学でこども家庭福祉を専門にしております、特に社会的養護が専門でございます、どうぞよろしくお願いします。情報発信の件ですけど統計を見ますと、要するに对面で情報を得たいということが、1位2位3位でこういうふうになっておるわけで、SNSなんかも下がったという、これはおそらく信頼ある情報が欲しいというそういう現れでないかなというふうに思いますので、情報の信頼性をどういうふうに担保したらいいかということが1つ課題ではないかなと。この情報は信頼できるという何かそういうメッセージなりマークなり何かそういう意味での信頼性をどういうふうに、情報発信のときに担保するかっていうことがすごく重要なことというふうに思った次第でございます。それは情報発信ですけども。他に私が関与してる社会的養護の関係で申しますと、先ほど保育人材の確保に向けた情報発信がございましたけども、児童虐待とかそれから自殺ですねこどもの自殺とかいじめとか、不登校の児童の増加とかこどもの問題が深刻化してる中で、やはりそういう中でやはりこどもの相談機関ではですね、専門性のある人材の確保の定着が課題となっているわけでございます。そういう中でですね、県が福祉職採用を導入していただいたことについてはですね、専門家としてはですね心より感謝を申し上げたいと思います。そういう専門家がやはり各機関に必要だと。しかしながらですね市町村とかのこども家庭センター、児童養護施設などのですね児童福祉施設の、人材確保が非常に今難しいような状況で定着の困難さも抱えております。私のところにもそういった相談が来てるわけございまして、そういう声にこたえる上でもですね、県としてもですね、その児童福祉機関や施設での人材確保や定着についてですね、何か事業化を考えていただくとありがたいなと。私ども大分大学には福祉健康課がございますので、大学としてもできるだけそういう人材をですね、育成して県内の専門機関に派遣し採用していただくような取り組みを推進していきたいと思っておりますので、大学としても協力させていただきますので、ぜひご検討いただければと思ってる次第でございます。私からは以上でございます。

清国会長 ありがとうございます。これで皆さん発言がしやすくなったのではないかとこのように期待をしますが、いかがでしょうか。

山口委員 着座にて失礼いたします、皆さんこんにちは。同じく前回欠席させていただきました「おおいたパパくらぶ」代表させていただいております山口と申します。1人の子育てをさせていただいている父親としてですね、やはり本音を申しますと、紙媒体で見るこってというのはいんまりお父さん方少ないかなというのが本音です。その時にやっぱりスマホ1つで見れるSNSとかですね、ホームページとかそういうのはもう大変ありがたいなというの、常日頃メンバーとも話し合っております。そんな中でもし可能であればというかですね、今先生からお話ありましたように、やっぱり信頼性の問題っていうのは不安が尽きない部分もあると思うんですけども。幼稚園保育園とかでいう「コードモン」とか、学校でいえば大分市でいえば「すぐーる」とか、あと県ので言えば「母子モ」とかですねそういうアプリに、時々ちゃん

とお知らせみたいな感じでリンクを貼っていただいているんですけども、もっとお知らせだけでなくメニューとしてお困り事があればというのを見れる項目がもし、追加が可能だったらもっとお困りのあるお父さんお母さん方が発見しやすいんじゃないかな。ましてや信頼のあるアプリであればなおさらというのが、1つの1人の父親としての意見でもあります。よろしくお願いします。

清国会長 ありがとうございます。信頼性について2人の委員からも触れられましたが、情報が溢れている中でどう届けるっていうのはもちろんそうなんです。受け取る側からしたときの、不安みたいなものをどう払拭解消するかっていうようなことが大事だなあとということをいただいたように思います。関連することでもしないことでも結構ですがいかがでしょうか、それぞれのお立場でご発言をいただければと思います。それではお願いいたします。

佐藤久住委員 こんにちは。大分県の放課後児童クラブ協議会の佐藤と申します。今言う情報と今この放課後児童クラブが課題として抱える情報はちょっといろんな情報があるなと思いがちながらすごい違う情報言っちゃうかしらんけどよろしいですか。いいですね。要は、放課後児童クラブに入ってくる情報っていうのが非常に限られてるんです。例えば、台風、インフルエンザ、もろもろで休校になりましたよって、休校になるけん、じゃあクラブを休むの休まないの、みたいなところの情報が非常に入りにくかった過去があります。で、随分改善はされたんですが、なかなかその放課後児童クラブの立ち位置みたいなところが少しあやふやなところがあって、小学校でも幼稚園保育園でもないところということで、少しそういった連携も含めた情報のもらい方といったところがすごく課題があるのかなと思ったりもしてらるんです。例えば、今県下的にその統廃合がいろいろ進んでいて、そこで統廃合に関わって放課後児童クラブをどうするのかみたいところで、その地域の子育て拠点といった意味ではとても重要であるというふうに思っているんですけども。その中で、例えば小学校とか保育園幼稚園に関する方については、何かそれぞれが寄り合ってお話ができるんやけどどうしても放課後児童クラブがその輪の中に入っていけないと。なぜかという、その存在そのものが、結構忘れられがちになるというのが現状かなと思ったりしてらるんです。例えば、かけ橋プログラムでしたっけ、小学校とか幼稚園保育園をつないでいくプログラムがあると思うんですけど、そこには放課後児童クラブは入っていないんです。だから、そこら辺も含めた制度上の位置付けみたいなところが、少し何かを整理していただいた上で、情報が入りやすくなるような環境が整うとありがたいなと。だからその外部に発信するというよりは、内部の中での情報が非常になかなか行き届かずに困ってしまうということが、現状としてあるのかなと思ったりもしているんです。保育園幼稚園から小学校にあがる子たちで、幼保と小学校との連携みたいなある時に例えば、困りのある子障害のある子が入学していきますよって話になってきたときに、学校では十分な準備ができるんですけど、なかなか放課後児童クラブに情報は行き届かないと。で、小学校に入学する前に放課後児童クラブ始まるんですよ、4月8日から始まると4月1日から始まるんです。ぼーんとしてきてなんじゃこれはみたいな状況が生まれることも結構事実としてあるんです。だから、そういった連携等々も含めた上での情報のいただき方、私どもの発信の仕方みたいところについては、大きくまだ課題があるかなというところでこの話はちょっとずれてくるかもしれないんですけど、現状としてちょっとお話をさせていただきました。お願いします。以上です。

清國会長 とても重要な指摘をいただけたのではないかなというふうに思います。関係機関の連携、情報連携も含めて問題提起をいただいたと思いました。ありがとうございます。いかがでしょうか委員の皆様方。すいません、どちらがお先だったかっていうのは見えなかったので、奥の中内委員さんからお願いいたします。その次に姫野委員さんお願いいたします。

中内委員 さくらいろ保育園の中内です、よろしくお願いします。私がママになってからインスタをチェックして情報収集することが多かったんですけど、インスタって誰でも発信できるし誰でも自分が思ってることを言えるので、本当の情報っていうのを探す選ぶっていうのがすごく大変だったなっていうのがすごく思います。今も結構そういうことがあるんですけど、そこでちょっと鳥取県で導入されたっていうのを聞いたんですけど、デファクトチェックっていうAIを活用して正確な情報に認証バッジを付けることで、これが正しいっていう安心感をママたちも子育て世代の方たちはすごく思うのかなと、今朝のスマートニュースで思ったので、もし可能なのであればそういうことも検討していただけたらいいなと思いました。SNSにやっぱり頼りすぎるんじゃないくて、保育所に通ってるお子さんとかは、先生が保護者の知りたいことを調査して、保護者が必要としている情報を提供するとか、保育園行っていないお子さんもたくさんいるので、そういうお母さんたちが困らないような対策ができればいいなと思います。大分市キャンプ協会のチラシを今日ちょっと挟ませていただいた青のチラシがあるんですけど、ママたちファミリーでのコミュニティーづくりっていうのもそこで情報交換もできるかなと思うのでもしよかったら見て欲しいなと思います。この課題にちょっと関係ないんですけど、県民会議の事前課題のときに、テーマだけ送られてきて私がすごいとんちんかんな事前課題を出してしまうので、できれば資料と一緒に事前課題を出していただけるとちょっとお忙しいとは思いますが、そこもすごく考えて課題を提出したいのでお願いしたいなと思いました。すいません。よろしくお願いします。

清國会長 どうもありがとうございました。貴重な情報もいただけたので参考になるかなというふうに思いました。姫野委員さんお願いいたします。

姫野委員 大分県民児協の姫野と申します、よろしくお願いします。先ほどから報告をお聞きしまして、あらゆる方法での情報発信がなされているなというふうに思いました。私どもに意見を求められましたけれども、もう答えるところもないほどにあらゆる方面からの情報がなされていて、SNSの活発な活用などそういったことでなされているなというふうに思いました。ですが、やはり先ほど先生もおっしゃいましたように、より信頼性のある対面による情報の入手というのはやっぱり依然多い、やっぱりそこはうなずけるところであります。私の活動としまして直接母子に対して、一緒に活動している中でですね、よく目にすることなんですけれども、母親同士のおしゃべりというのが非常に重要で情報を交換する貴重な場になっております。こういった場所があるということが先ほどの報告にもありました、あらゆる方法での情報をキャッチするための情報を得るという場にもなるのではないかと思います。ですから、そういった居場所づくり、集いの場づくりというのはやはり必要ではないのかなというふうに感じました。以上です。

清國会長 ありがとうございます。なかなか井戸端もなくなってまいりましたので、対面の情報が難しくなっておりますよね。ご指摘のとおりかなと思いました。委員の

皆様方がでしょうか。それではお願いいたします。佐久間委員さんお願いいたします。

佐久間委員 お世話になります、保育連合会の代表で出席をさせていただいてます、宇佐市にある宇佐こども園の園長の佐久間といいます。資料にも書かせていただいているんですけど、本当こう急速に情報化社会が広がってるなという印象がありますし、そこに書いてますように今の課題としてですね、核家族の孤立化だったりですね本当に今子育てもおじいちゃんおばあちゃんが近くにいても、夫婦だけで育てたいっていうそういう思いが強い方もいらっしゃるなという印象もあったり、なるべく手を借りずにやっていきたいみたいな方もいらっしゃいますし、あと地域の繋がりが薄くなったり、情報が溢れ過ぎてて何を選んでいいかわからないという状態ですね。あと子育ての価値観がいろいろこう広がってるので、園からこうお伝えするようなときもこの方にはこういうお伝えはするけど、同じ情報を同じ方に伝えてもまた、違ってくる別の方に伝えても違ってくるという形で、個別に情報を提供するような場も必要だなというふうに感じているところです。本当に園の現場ではですね、先ほど動画でも出ましたように保育士さんが一生懸命子育て支援をしているところですけど、特に行事等ですね、保育参観だったり保育参加型のイベントだったり、例えば今やってる運動会とか発表会とかもいろんな行事を、保護者を巻き込んで取り組んでるんですけどもそういった中で、いかに子育ての情報を適切に伝えていくかが重要だって自分自身も考えているところです。特にそこにも書いてるんですけども、特に乳幼児期ですね「食べる・寝る・遊ぶ」この3つを私は3大要素というふうに呼んでるんですけど、「食べる・寝る・遊ぶ」をいかに乳幼児期に大切にしていけるかが、すごい重要なのでここが最近乱れがちなのでなかなかこううまく子育てがいかないという方も結構いらっしゃるなという印象がありますので、いかに園が伝えていけるかなというふうに考えているところです。特にあの園はもう本当、3、4、5歳児の就園率はもう97%98%ぐらいだと思いますし、2歳児に関しても確か60%ぐらいですかね、1歳児が、4、50%、0歳児が20%30%ぐらいかなと思いますんで、本当3、4、5歳児に関しては、義務教育ではないんですけども義務教育に近いような形にもなってると思いますのでそういったつもりでですね職員一同で、しっかり保護者を支えていく、地域をつくっていくそういった気持ちがこれから大事だなと思ってます。併せて子育て支援センターうちは今併設してやってるんですけど、0、1、2の就園する前のお子さん親御さんが主に来てくれるんですけどそういったところで、しっかり人と人と繋いでいく、そういったところがすごい大事だろうと思いますし、先ほど言われてただべりの中でいろんな情報を掴んでいくってこと。行政といかに私たちが連携していけるかってのはすごい大事なので、行政と常に連携をとりながら、今こういった情報を行政では流してるけど、じゃあうちとしてはこういう情報を流していきますねという形で、しっかり連携していくことが大事かなと思ってます。ちょっと最後余談になりますけどインスタ等もですね、すごく今の時代には大事だなと私自身は思ってますけど、よく利用者で本当に悩んだときは、Instagramはちょっと見るのがつらいというそういった声も聞いてますので、やっぱり公の場から発信をしていく掴みやすい情報を提供していくというところは非常に大事なかなというふうに思っています。私からは以上です。

清国会長 どうもありがとうございました。いかがでしょうか、委員の皆様方、お願いいたします。

木村委員 お世話になります、小学校長会の木村といいます。小学生の保護者が子育てに関する情報の入手先として希望するものっていうのが学校というのがあるんですけども、確かに学校に様々な配布物がきます。本当にたくさん来るんですね。特に長期休業前とかになるとたくさん来てですね、本当にいろんな作品募集から、こんな必要な子育て支援のことがたくさんあってですね。もう夏休み前とか結局もう一人一人に1枚ずつやってると大変なので結局こういう袋に入れるような感じで渡していくんです。で、保護者の方にこどもを通じて渡します。この中から保護者がどれが必要かっていうふうを選ぶのが非常に難しいなと思います。本当にその時に届きたい人に届いてるのかなという不安もあります。県とかから、この作品募集いいのになと思うんですけども募集が少なくって、保護者が見ていなかったっていうのがあって、後から声かけると出したかったのにとかってたくさんあるんですね。だからこうやっぱり私も意見の中書きましたけど、バランスが非常に難しくて、紙でとにかく学校に行けばとにかく一定程度の効果はあるけれども、本当に必要な人のところに行くかっていうと、ちょっとそこの怪しさという語弊がありますが難しさがあるというのが現状であります。ですので、学校と紙媒体でやるのと、やはり大分市は「すぐる」とかっていうのがありますからそういうメール配信システムで送るということも、非常に有効な手だてではないかなと思いますけど、そのバランスをとるのが難しいなというふうに思います。一方で、先ほど信頼性というところがあって、各学校には小学校に1つずつ学校のホームページがあるんですね。そのホームページにリンクを貼ればいいんじゃないかということになると、でもそうすると今度本当に信頼性があるかどうかって非常に怖くてですね、そこはもう教育委員会の方が、いろんなことでブロックしてくれてますから大丈夫だと思うんですけど、何でもかんでもその子育ての情報を各学校のホームページにリンクを貼ってしまうと危うさがあるなと。有効な手だてではあるけれども危うさがあると、今の状況の中であるなと思ってためらっているところでもあります。実際ちょっと話が長くなって申しわけありませんけども、今学校で配るのは、市とか県とか教育委員会とかの後援があるもの共催があるものについては配布するようにしています。そうじゃないものについてはですね、実際ちょっと困ったことがあって、ちょっとあるそういう広告を配ったときに、そのバーコードがあってそのバーコードを読み込んだら今度クレジットカードの番号を読み込むような形になって、その親子でどうぞ何とかフェスですみたいな感じで、長期休業前配ったりするとそういうところにリンクが貼られていて、その保護者は被害に遭わなかったんだけどそういうのがあるということがあるので、その発信の難しさ情報提供の難しさってのは、一方であるなあというのは非常に重い難しさを感じながら、紙が来たときにこれ配ろうかな配った方が配らなくていいのかなということを毎日考えながら配布しているところでもあります。長くなってすいません。

清国会長 木村委員さんありがとうございました。いかがでしょうか、委員さん方。関連することでもそうでないことでも結構です。いかがでしょうか。それではお願いします、佐々木委員さんお願いいたします。

佐々木委員 佐々木社会保険労務士事務所の佐々木と申します、よろしく願いいたします。私は企業と繋がることが多くてですね、やはり休む、育児とかで休む場合やっぱ企業に理解をしてもらわないと絶対的に休めない。なのでやっぱり企業を巻き込むことがすごく大切なんだろうなと思うんですね。いまだに育児休業に入るっていうとやっぱりパタハラ、10年前はパタニティハラスメントっていう言葉が一切わからなかった時代がもうパタハラっていうと、パパに対する育児休業のハラスメントだねっ

て最近やっとわかってくる。ただ、私たちの上の 50 とか上の世代っていうのはやはり父親はまだまだ仕事をする世代なので、そこに理解がまだまだちょっと薄い、なんで早く帰るん？みたいな。まだまだまだまだお前、ママがおるけんいいやんみたいな。まだまだまだまだそういう企業がたくさんあると思うんですね、やりたくてもできない、であればやっぱり企業のトップの方とか人事の方に理解をしてもらう必要がある、内容としてはやっぱり方法論としてやっぱ企業を巻き込んでいってやっぱり企業の方に協力していただく。あと内容についてなんですけれど、どうしても女性が言うとか責め心があるとか責められてる気がするとかよく言われるんですね。何かどうしても耳が痛いとか、耳が痛いのでなんか途中でなんかもう聞くのが嫌になるみたいな。であればやっぱり「パパくらぶ」のような男性が、同じ立場の男性が発信をしてくれた方がいいのかなと。だからやっぱり企業の男性の育児経験者みたいな人がもっといっぱいこう出てきてくれたら、私としてはもっともっと浸透していくんじゃないかと思います。以上です。

清国会長 どうもありがとうございました。なんか大分県でもその協賛企業とかいうようなものを募ったりなんかされているんですかね。子育てにやさしい企業、そういう企業のブランディングみたいなことでも関連するのかなあと。一方でなかなかそこが十分伝わっていないんじゃないかというふうなご指摘だったかなというふうに思いました、ありがとうございました。いかがでしょうか。矢野委員さんお願いいたします。

矢野委員 すいませんありがとうございます、「おおいた子ども支援ネット」の矢野と申します。今の 50 代の経営者ということだったので、ちょっと私の方が耳を痛くしながら、これから気をつけて頑張んなきゃいけないというふうに思った次第でちょっとマイクを持たしてもらいました。嘘ですすいません。最近都市部に行くんですね、若者やこどもは「チャッピーに相談しようぜ」って言ってます。チャッピーって皆さんご存じですかね、大分でもちらほら ChatGPT ですよ。相談先はチャッピーさん。情報取るのも結構チャッピーさん。そんなふうな感じの時代背景がある中で、今回のテーマに基づいて、情報量はもうすでにこだけ大分県やられてて、もうすでに届け方とか見せ方とか種類についても結構飽和かなっていう気は正直しています。その中で問題はどこなのかというと、その情報を届けたい人に本当にピンポイントで届いているのかっていうことがまず 1 つと。もう 1 つは、情報から孤立している人たちはいないのか、届く前にその孤立はないのかというこの 2 点でちょっと整理してみることも大事なかなというふうに思っております。そうすると、先ほどお話にあったように、情報の孤立とか情報がなかなか届けたいとこに届かないとなると、やはりここには人の力が必要だと思ってまして。場を作ったり、人を作ったりするっていうこの方向の議論が必要なのかなと思ったりします。もう 1 つですね、実はこれ私も反省なんです、これはすいません行政の皆さんの前に大変申し訳ないんですが、実は行政も我々その民間法人とかも、自分たちに関係のないエリアの情報ってあんまり知らないんですよ実は。私達もその分野には強い、ところがトータルとしてプラットフォーム的ないろんな情報はなかなか持ち合わせてないのでこれがどうなるかというと、例えば私たちの目の前にこどもたちの支援をしますが、お母さんの支援とかすると、私たちの場所からちょっと近くにあるんだけど、次はこうがいいよねとか、この先はこれができるよねとかいうときに、ちょっと繋がる分野とか、ちょっと隣接する分野の情報を我々がどうやって正確に持っているのか知ってるのか、この辺は我々の自分たちの足元を見る必要があるのかなと思ひまして、これが 1 つ情報の信頼性みたいなことに

も繋がるのかなというふうに思っております。会社経営でパタハラをしっかりと意識しながら頑張っていきたいと思っております。ありがとうございました。

清國会長 矢野委員さん、どうもありがとうございました。いかがでしょうか。よろしく願いいたします。高橋さんですかね。

高橋委員 大分県助産師会の高橋と申します。助産師はいつもお母さん方にすぐ一番関わるところなので、妊娠中から産後という形で関わらせてもらうんですが、やはり情報としては圧倒的にInstagramでやっぱり利用してる方がすごく多いです。そこから連絡を取って繋がっていくとかっていうこともあるんですけども。ただ、忙しい中でどなたか書いてるやっぱり、子育てするときにいろいろ調べていくって結構ハードルが高いというか、そういうところがすごくあるんですけど、今矢野さんが言われたように、専門職がやっぱりきちんとその場その場できちんと情報を提供できるってのはすごく大事なことなのかなって、知っててもそこまできかないことがとても多いので、産後ケアなんかも最近QRコードとかで申請ですごく簡単にはなってきたんですけど、それでもやらないんですね。で、もう困ってるからもうもうその場で、もう実際入ってもらって、それ全部言って初めて自分がそれに入って産後ケアを体験してよかったってなったら、次にどんどん発展していくような現状があります。なので、やはり本当に必要だったら、助産師会とかは赤ちゃん訪問したりとか産後ケアとかで近くにいますので、そういうところで情報をきっちりやっぱり伝えていかなきゃいけないっていう必要性は日々感じております。

清國会長 ありがとうございました。それではいかがでしょうか。お願いします、佐藤委員お願いします。

佐藤敬子委員 青少年の健全育成の方の審議会をしております佐藤です。何かちょっと柱があると議論しやすいかなとは思んですけど何か言いたいことだけで申し訳ないんですが、先ほど矢野委員がチャッピーのことをおっしゃったんですが、確かに青少年は青少年だけでなく私も、困ったことがあったり迷ったことがあったり落ち込んだり悲しいときには、私はチャット先生って言ってますけど相談します。とても思いやりがあります。気の利かない人間よりも、よっぽどまずは認めてくれるし褒めてくれるし決して否定しないし、ただ例えば中高生の場合、または大学生もそうなんですが、必ずお友達として名前をつけてるし聞くんですが、最後に決断するのは人に聞くそうです。つまり、友達であったりそれからあとは家族であったり信頼できる人だから、あえて書いたことということはないと思ったんですけど、最後は人だと思うんですね。私も教員もやってましたし、PTA来て欲しい親は来ん、とか、それからですね、これ聞いて欲しい人は聞いてないし、いくらSNSっていっても、SNSは自分の興味のあるところにほじくっていくので興味のないものは見ません。だから、いくらお金をかけてもなかなかそういう有効な手だてではなくって、だからむしろなんて言うんでしょう、多分ハードルが高かったり、例えば県の子育て何とかかんとかだとか、県のこういう講演会がありますとか、そういう場所のハードルあるいは、言葉のハードルわかりやすいベタな言葉じゃなくて、こどもを健全に、そして、将来のなりたい自分に、自立を目指してって言ってもそれもハードルが高いので。だから、私明日からまた鳥取でちょっとそういう子育ての感じの行くんですけど。要は、例えば今学校の先生が少なくて困っています。ですから、全国で今ペーパーティーチャーの研修会というのをやって、もうとにかく先生の免許だけ持ってて現場に今出てない人を

たくさん集めてもらって、魅力あるっていうのを全国でやってるんですね。私各県に行ってるんですが、場所のハードルはこういうところではなくて、デパートです大抵。つまり絶対行くっていうか帰りに買い物してもいいし、何となく寄りやすいし、しかも土日だしっていうことで、だから、皆さんの意見と全く一緒なんですけど、届くために届けるためには、その相手の本当にそこに届けたい人のハードルを下げてあげる。言葉や場所のハードルを下げるとか、やっぱり最後は私、確かにチャット先生はとてもやさしいんですけど、最後は人かなって思いました、以上です。

清国会長 どうもありがとうございました。何かそういえば夜間中学の説明会もそういう何とかモールでやっているようなこともありましたので、佐藤委員がおっしゃったように心理的ハードルっていうか、それを敏感に感じ取ることがやはり必要なんですよね。ありがとうございます。いかがでしょうか。せっかくの機会ですのでぜひお願いします。

安藤委員 はい。大分県医師会の安藤です。あまり発言がないとあれなんですけども、県が取り組んでる情報発信としてはですね、まず1つはこども救急電話相談の＃8000は、県から県医師会が委託を受けて、小児科医会が携わる形で進めてきてます。大分県の＃8000の歴史は20年以上で、全国でも3番目に早く導入したという実績があるんですけども。当初、小児科医がですね、分担して対応してたんですけども。業務的にちょっと限界に達してて、今はもうほとんど全国的に民間の業者に委託して、＃8000事業を運営してるという状況があります。で、大分ももう5年以上前から民間委託を取り入れて、数年、3年ほど前からもう完全民間委託に移行しました。そんな中で業者がいくつかあるんですけども、随意契約的な感じで、一定の業者に何年も連続お願いしたんですけどもそれを、県の会計局からよくないということでクレームがつかまして入札が必要だと。で、完全に民間の企業に委託して県との直接交渉になると、もうその間に県医師会は介在しないような状況になるんですけども。そこで入札にあたってですね、金額だけで決められると安かろう悪かろうで、サービスが実際に落ちるかもしれないということで、入札には必ず県の医師会が携わって関与して、十分な質の担保を継続して図るような試みをさせていただいてます。もう1つ、県が最近始めた取り組みとしてはですね、不定期ですけども、その時そのときの医療のトピックス、県民に伝えたい情報をですね、記者会見をして伝えるということを始めました。そのときの医療のトピックスとしてはやっぱり感染症絡みのことが割と多くて、感染症となるとどうしても小児の健康と関わる部分も多い。そんな中でSNSとかに頼ってると誤った情報とか、場合によっては、悪意を持った誤情報とかが紛れ込んだりすると混乱を招くことがあるので、医師会としては正しい情報を皆さん県民にお伝えしていかないといけないということで始めた事業になります。そんな中で、最初に取り上げたのですね、ヒトパピローマウイルスワクチンの情報で、3年ほど前にキャッチアップ接種といってですね、定期接種を超えた年齢の方でも定期接種扱いで無料で受けるという事業。期間があってそれが去年で終わるということで、それで接種率が十分上がってなかったの、十分情報が行き渡ってないという状況をかんがみ、しかも副作用の問題も他の定期接種ワクチンと比べてですね、特別副作用も多くない安全なワクチンであるというデータも最近そろってきましたし、明らかに子宮頸癌を含め、多くの癌が明らかに減ってくるという科学的なデータもそろってきたので、その辺をやはりちゃんと啓発していく必要があるだろうということで、記者会見を開いて、報道機関にも協力していただいて発信したというような経緯もありま

す。県医師会が今いろんな取り組みをしてるんですけども、情報発信ということで積極的にやってるという事業としては、その辺になるかなと思います。

清國会長 どうもありがとうございました。科学的な知見といいますか根拠っていうのは、やっぱり重要だなと思いながら聞かせていただきました。委員の皆様方がいかがでしょうか。お願いいたします。本室委員さんですね。

本室委員 ありがとうございます。「大分のママ集まれ」の本室でございます。私たち「大分のママ集まれ」は県下最大のママと女性のコミュニティで年間を通してオンラインオフラインで、お母様たち女性たちのご意見を吸い上げるということをやっているんですけども、今6年目になりまして感じるのはお母さんたちっていうのは、やはり実際ご自分が欲しいタイミングで、ご自分の生活圏の中から当てはまる情報が欲しいっていうのが、もう誰しもそうだと思うんですね情報発信側はいろいろ考えるんですけど、情報を得る側は、情報発信側は大変になる前に教えてあげたいって思っても、実際は情報をいただく側は、耳が開かないとどんな情報をもらっても決して耳に入ることはありませんので、自分が欲しい情報を自分が欲しいタイミングで、自分が受け入れられる生活圏内で欲しいというのがやっぱり本音だと思います。ですので先ほどデータでも、あの人づたいが、小学生以上の方では、人から教えて欲しいっていうのが増えているのはもうそれはもうそのとおりで、登校班が一緒のお母さんから教えてもらったりとか、あとはPTAでちょっと会ったお母さんに教えてもらうっていうことが増えているのもそういった一因だとは思いますが。ただ先ほど木村委員さんがおっしゃってましたけど、小学校や幼稚園、例えばいろんな人づてで情報を発信しようとする、その方々の負担ってのは絶対に増えてくると思うんですね、先ほど校長先生は何もおっしゃいませんでしたけども、じゃあそのプリントを仕分けて先生たちが一人一人、うちの子のクラスは40人ぐらいですけども40人のこどもにセットするのってものすごく負担になると思いますし、小学校だけではなくて例えば学童だったりとか、他のこどもさんの集いの場でも、情報発信が業務ではないので皆さんは、日常の業務プラスで情報発信をするとすると、やはり負担を考えないといけないというのと、それから実際にいろんなお母さんと関わっていて思うのが人づたいの情報の中で皆さん、どなたかが先ほどもおっしゃってましたけども、個人のリテラシー問題っていうのは絶対にあると思っています。なので同じ情報を伝えるにしても、正しく伝えられるかどうかっていうのは人それぞれですので、人に完全に頼ってしまうのは、その2つの面から危険ではないかなと私は思います。ですので、そういったことができるかどうかかわからないんですけどもご提案としては、人をお願いするのであれば、もう事業としてお願いしてはどうかなと思います。普段の活動にプラスして、こういったことに協力してもらえませんかということを、しかも今までですと入札をどこかの民間業者1つに選んできたと思うんですけども。そうすると、結局その方々のおつき合いがある方々にしか届かないんですよ。どんなに情報を持っていて発信していても、多様化していますので例えばテレビでも好きなチャンネルがあったりとか、SNSでも好きな情報しか見ませんし、ですので1つの業者に委託するとかではなく、可能であれば複数のところに事業としてお願いする形がとれて、かつそうすると今度県職員の皆様が大変だと思いますので、ちょっと書かせていただいたんですけども、そこを取りまとめる業者さんも選定して、偏りがない形でいろんな皆さんにご協力を依頼するというのが1つ方法ではないかなと思いました。以上です。

清國会長 どうもありがとうございました、本室委員さんから、母親のというかね女性の本音の部分もお話をいただけたように思いました、ありがとうございました。いかがでしょうか。お願いいたします、佐々木委員さん。

佐々木委員 すみません2回目なのですが、今のお話を聞いてちょっと思い出したのが、ちょっと今回の事前のときに言質が取れなかったのでお出ししなかったんですが、海外ではこどもの相談っていうのは一本化されてるらしくって、幼稚園とか幼少期とか、小学校時代とか高校とか分かれてなくて、こどものことはここに連絡をすればいいっていう窓口が一本化されていると、イギリスとかですね。そういう話を聞きましてぜひ日本でもそういうふうな縦割りとかではなくて、一本化して欲しいという声は今出てきているのをちょっと、まだちょっと言質が取れてなかったんで事前にはちょっとお出しできなかったんですが、ぜひ考えていただけるとありがたいなと思います。

清國会長 ありがとうございます。だんだん2回目に入っているところもですが、ぜひ1回目の方もお願いいたします。

佐藤久住委員 放課後児童クラブにとって必要な情報って何かって思ったときに、要するに一番大きな課題として、その現場の職員さんが数が非常に足りないっていうのが現状としてあるんです。で、どうやって人を集めていくかってなっていたときに、放課後児童クラブっていう場所が、こんな場所でこんな働き方があってこんぐらいのお金をもらえてこんなふうな感じみたいところを、結局伝わりきってないんです。例えば、私もここにいろんな委員さんがいらっしゃいますけれども、具体的にどんなお仕事でどんなふうな働き方なのかさっぱりわかりません。で、放課後児童クラブというで聞いて例えばこどもが帰ってる時間だけ働けばいいんだろ、見守ってあげればいいんだろ。4時間だけ働けばいいんだろっていう認識がおそらく持たれるのがほとんどで、そうじゃなくてそれやったら人が集まらないから、もうちょっといろんな働き方があってみたいなどこ実は、とっても伝えていきたいんです。で、伝えるために関係者では一生懸命伝えようと努力してるんですけどそれでも人は集まらないんですけど、要はいろんな理解を広げていくためには、保護者もそうですし行政関係者もそうだしいろんな方が、そこでこう現状を知って、こんな場所なんですよっていうことを知っていただく必要があるなと思ったときに、どんな事業にしてもそうかなって思ったりするんですけど、本題にそこが何を目指してどんな場所であるかってしたところを地域の方がしっかり理解するような、やり方をさしていただくと嬉しいなと思ったりもしています。放課後児童クラブもほぼ保護者は預けておしまいなんです簡単に言うと、そこに運営に関わるとか一緒に協力しながら取り組んでいこう子育てをしていこうといった認識を持つのは、かなり難しいかなとやっぱり思ったりもしています。その中で、理解をいただいて一緒に作り上げていくんだよといった思いはすごく大事ななと思ったときに、この放課後児童クラブっていう場所がどんな場所だと発信するのは、もちろん私たちも今、鋭意努力をしてるんですけどもなかなか難しいところもありまして、いかに行政とこう繋がりながらやっていくこともすごく大事であるということ、何か話を聞きながらすごく思ったんで、情報でグジグジ言ってしまうがちなんですけどただ私たちも前向きにとらえながらですね、いろんな情報を発信して、一緒に歩んでいけたらいいなと思ったりしますんで、どうぞよろしくお願いします。

清国会長 ありがとうございます。いかがでしょうか。それでは土谷委員さんお願いいたします。

土谷委員 こんにちは。子育て家庭の届ける家庭訪問型子育て支援ホームスタートの土谷と申します。各分野の皆様のご意見を伺い、また広い視野で勉強させていただいてますことととてもありがたく思っています。どうもありがとうございます。私が考える情報発信ということにつきましては、子育て家庭と具体的な支援だったり、そういうサービスをつなぐ、人と人とをつなぐ媒体として私は考えております。行政も縦割りではなく横の繋がりなど、民間とともに情報発信していった具体的に顔の見える繋がりであったりですとか、あと場所やそういうイメージのつきやすいイメージが伝わりやすいようなところに、アクセスできるような工夫が必要かなと思います。子育て中のお父様お母様たちは日々の生活できっと精一杯だと思いますので、心とか感性に訴えるような、文字中心ではなくイメージが伝わりやすいような情報にたどり着くように、ご検討いただけるといいかなと思います。あと、佐々木委員のお仕事の企業との観点というところと、佐久間委員の核家族の孤立化ということで、私もちょっと感じてること。私どもの活動の中で今直面している課題について、この場をお借りしてちょっと皆さんと共有させていただいて、またご助言いただけたら幸いだと思っております。せっかく初めて佐藤知事がご出席いただいています。大変ありがたいです。1事例となりますが、今の県民の子育ての状況ということでちょっと事例を紹介させていただきたいと思います。今訪問に行っている方で、お母様が初産でお仕事の形態が育児休暇がとれないような形態です。産後8週の産後休暇は取れるんですけども、その子育てにバトンタッチしまして、お父様が育児休暇を取られるということで、1ヶ月半の赤ちゃんをお父様が地元でない大分市で、お1人で見られるというところに私今サポートさせていただいております。なかなか、イクメンだったりとかお父様の子育ての参加ということですが、1ヶ月半の初産の初めての子育てを、男性1人でしていくということにつきましては、やはり大変難しい状況ですとか、お母様の支援はたくさんいろんなところに繋がりやすいかと思うんですけども。お父様が1人で子育てをするということにつきましては、まだまだまだまだ、現状としてサポートできるような仕組みが整っていないのではないかなと感じております。最後になりますが、私は人が人を育てるのはいつの時代もデジタルではなく、アナログだと思っております。こどもたちの心はデジタルでは育たないと思います。ですから、地域の支え合い人と人との繋がりということこそが、お父さんお母さんの安心して子育てができる、その子育てを支えて、お子様の健やかな成長を支えるものに繋がっていくと思っております。子育て満足度日本一大分県ということで、私たちもそれぞれの立場で、地域で思いを1つに頑張って参りましょう。ありがとうございます。

清国会長 ありがとうございます。事例も踏まえてお話をいただきました。いかがでしょうか、他の委員さん方。ありがとうございます。藤田委員さんですかね。

藤田委員 芸術文化短大の藤田です。調査が先ほど希望するものっていう調査だったんですけども。私も非常に、何ていうんですかねもうかなり充実した情報がたくさん流れていて先ほども見せていただきましたけれども、いろんな形態もあるし「子育てのタネ」もですね大分市の「naana (なあな)」も非常に充実してるなというふうに思っているので、調査の中で困ったことを聞いたほうがいいのではないかなと思ひまして、こういう情報が得られなかったから実際に困ったっていう課題がもう少し出てくると、じゃあこっちもこうしましうかっていうふうになるのではないかなというふ

うに思いました。私自身は孫の面倒を見てましてこの間夕方 18 時半ぐらいに熱を出されて、娘もまだ帰ってこないで 1 人で、私「子育てのタネ」も「naana (なあな)」もよく知ってるのに、いざ熱が出てもうかかりつけ医は閉まってるし、夜どこにどうしたらいいのかってすごい焦って、いろいろ検索するけどよくわからなくて、どこに電話しようとか娘が帰ってくるのを相当待ってたりとかっていうふうな感じなんで何か緊急のときの、熱が出たとか吐いたとかは、「子育てのタネ」でもなんかもっと目立つところに緊急で困ったってというような、なんて言うんですかね。飾りというか、があるといいのかなあとちょっと思ったり、さっき病院の方もあるみたいですけども。それから娘がですね仕事のスケジュールがすごい大変で、1 歳半健診のそのいつ行かなきゃいけないかみたいな情報が結構直前、1 ヶ月前ぐらいしかわからないって言ってたのかな、なんか調べ方も悪いのかもしれないんですけど、もっと早く分かれば、仕事の調整ができるのにとかですね何かもっと早く知りたいとか、ここで知りたいみたいなその要望というんですかねそこら辺が調査に出てくると、改善もしやすいのかなあというふうに思いました。2 つ目はやっぱり若い方私も学生とか見てますともうやっぱり紙は見ないかなあってというようなイメージを持ってて学生はやっぱりもうスマホの中に住んでるような感じなので、情報はやっぱり SNS とか紙媒体よりは、何ですかね、SNS とかの情報の方が届きやすいのかなという印象は持ってますけども。リテラシーの真実を見分けるような教育なんかはですね短大でもやっぱり力を入れてやっていく必要があるなというのはい思います。ただもう本当にどこの SNS でもどこに一番、高校生が見てるのとかですねもうどんどん変わっていくので、やっぱり若い人たちの意見も取り入れながらですねやっていったほうがいいのかなとは思っております。以上です。ぜひ学生の意見も聞いてもらえればと。

清国会長 どうもありがとうございました。いかがでしょうか。お願いいたします。
本田委員さんですね。学生さんですね。

本田委員 大分大学の本田楓です。今回は学生として意見を述べさせていただきます。大学生は将来の人生設計を考える中で、子育てについても少しずつ考え始める時期にある一方で、なかなかどこに情報があるのかとかどの情報が正しいのかっていうのを、正確に自分で判断できないところがあると感じています。そこで日頃活用している SNS による情報発信は非常に効果的だと考えています。しかし SNS にもデメリットがあると思っていて、その SNS は自分の興味のある情報に偏るというデメリットがあると感じています。ですので、子育てに特に関心のない学生には情報が届きづらいんじゃないかなと思っています。そうした学生に対して情報を届けるために、やはり大学を活用するっていうのは 1 つ大きな手段だと思っていて、例えば大学の食堂であったりオンラインの掲示板であったり、そういった学生の目につきやすいところに情報を発信するというのも、1 つ検討して欲しいなというふうに思います。また、単に一方的に情報を発信するだけではなく、学生や親が質問を気軽にできる場を設けることも非常に有効だと思っています。例えばネットのオンラインフォーラムなどを活用して、自分が今何に困っていてこういう情報が欲しいんだっていうのを、相手の方から伝えられる場があると、また有効的だなと思っています。今回のテーマが情報発信なんですけど、その情報を一方的に発信するだけでは不十分だと思っていて、やはり困っている人の意見を聞ける場所があるだけでも、自分としてもすごく安心するので、そういう情報のやりとりっていうのも 1 つ視野に入れて欲しいなと思います。以上です。

清國会長 とても貴重なご意見ありがとうございました。私もたまに食堂に行くんですけど、確かにそういう情報はないですね。ありがとうございました。委員の皆様方がでしょうか。目井委員さんですかね。よろしくお願いします。

目井委員 私大分市を中心に産前産後のご家庭のサポートをさせていただいてます目井と申します。産前産後のママに関わることが多いので、そちらの方面の話になるんですけども。産後のママで困ってるご家庭に行くことが多いんですが、もう皆さん一律して言うのは調べる時間がなくて情報が取れない。いざ調べても、やっぱり先ほどから出ているように偏っていたり、正しいのかわからないっていうふうな意見もよく聞かれます。そして一番多いのがもっと早く知りたかった。っていう言葉がとても多く聞かれるので、先ほど本室さんが言われてたみたいに、耳が開いてないと情報が入らないので、妊娠中から産後はこんなに大変なるよっていうふうに伝えても、伝わらないのも十分私自身も子育てしてるので、そのときは赤ちゃんの服どうしようかなあとか、出産ってどんなかなみたいなふわふわした情報しかない中で、産んでみたらこんなに大変だったんだっていうふうになってしまうので、そこをいかに自分ごとにしていけるようにするかっていうところが、まずその第一段階として大事なポイントなんじゃないかなというふうに思っています。具体的にこういうのができるってのは私にはあるかわからないんですけども。産前のうちに産婦人科とかでそういう情報を発信してもらったりとかですね、そういう講座があるとか言うだけでも、ママたちにはこう、あそこに行ったらなんかこんな感じだったよっていう口コミが広まるのも早いので、そういうふうな場があるといいかなというふうに思っています。出産して大変になったときに、じゃあどこに聞かかって言ったときに、先ほど佐々木さんが言われてたように、どこかここにかければ、とりあえず何かもらえるっていうところとか、ここを調べればいけるみたいなのが1ヶ所あると、とても検索のハードルも下がるし、大分県がやっているプラットフォームとかも信頼性が高いので、そこがもっとこう検索しやすく、しかも行きたい情報にポンッといけるっていうのが、かなり子育て中のママにとっては心強くなるんじゃないかなというふうに思っています。実際に窓口として人がいるっていうのも、話を聞いてもらえる方が安心するわっていうママもいるので、いろんな方法で紙もSNSも人も口コミもみんな使いながら、ママたちを支えていければいいのかなというふうに思っています。あと最後になりますが、私自身のちょっと今の悩みというか課題なんですけども、どうしてもやっぱ個人事業でいろんなママを支える活動をしてる方もいるんですけども。なかなか個人事業の情報を発信する場所がなくて、こどもルームとか市役所とか行政の窓口とかにはなかなかやっぱ信頼されてないとか、私たちの努力不足もあるんですけども、そういうところもあるので、そういうママたちにとって有益な情報で、そんなに怪しくないものがまとめて見れるような何かができたらいいなあっていうふうに、私の完全な個人の活動の意見なんですけどもそういうのを考えています。ありがとうございます。

清國会長 どうもありがとうございました。だんだんですね、時間も過ぎていっているとごさいます。せっかくの機会ですのでご発言をいただこうと思いますので、栗田委員さんが挙手をしていただきましたので、今日ご発言をまだいただいてない委員さんにもこう回っていきたいと思いますので、そろそろ私かなということで準備をしていただければ幸いです。栗田委員さん、よろしくお願いいたします。

栗田委員 ありがとうございます。大分県商工会議所連合会から参りました栗田と申します。よろしくお願いいたします。私自身も2歳児の母でして、私も含めてやはり多くの子育て中の親は日々こどもの世話と自分の仕事に追われて、なかなか自分から情報を探す余裕や時間がないというのが実情で、私自身も結構受け身の状態情報収集に関して受け身の状態なんですね。こどもが寝た後にちょっとう Instagram の情報でおでかけとか、イベント情報とか見たりそういうぐらいしかちょっと日々の生活の中ではできないのでやはり SNS とか、毎日使う LINE ですとか、園からの紙媒体ですとかそういうものだったら、受け身でもらって必ず目を通す方が多いと思いますのでそういったものを、本当に届けないといけないという情報は使っていただくとありがたいかなと思います。先ほど他の方々もおっしゃってたんですけども、大分県いろんな媒体が多くあるので、本当に情報は探せばいろいろ出てくると思うんですけども、逆に多すぎてどこから調べていったらいいのかわからないとかこれだけ情報あると、もうちょっと探すのも嫌っていう方もいらっしゃるかなと思うので、これだけ登録してれば安心みたいなアプリとか LINE のアカウントとかがあるといいのかなと思います。そういう LINE とか登録しても逆に情報がいっぱい来ちゃってもう逆に見るのも嫌ってなったりする場合もあるので、自分のこどもの学年とかニーズ、この情報が欲しいみたいなものを選んで自分に必要な情報だけが来るような何かこう、ものがあると嬉しいかなと思います。以上です。

清国会長 どうもありがとうございます。それでは首藤委員さん、お願いいたします。

首藤委員 「しげまさ子ども食堂」の首藤と申します、よろしくお願いします。情報が届いたっていう成功したっていうのはどういう状態なんだろうってこの質問をいただいたときに思っただけかなと思います。3年ぐらいひとり親等の食事支援事業っていうのをこども家庭庁の方からいただいて、物品を配布したり食事を提供したりとかいう事業をしていますが、ひとり親の方に行政と協力して全部郵便物で配布したこともあります、半分も申し込みがなかったっていう現状があります。家に届いた郵便物でも、やっぱりそれはなかなか見ることができないっていうことがあったりとかするので、今は実際にうちを利用してもらったこどもだったり保護者の方に直接もう手渡すとか、アウトリーチで届けるとかそういうふうな形を今年度はとっています。やっぱり本当にこの人には必要だって思う情報は、もう数は多くないけど、私たちが必ずこの人に申請までしてもらってという手順で今回私の意見は書いています。なので何ていうんですかね、SNS ですとかいうことと紙ですっていういろんな手段を使ってっていうのは本当に今すごく大事なかなと思います。皆さんが当たり前と思っていることができないっていう人が少数ではありますが必ずいます。だからそれをゼロだと思わないで欲しいっていうのが、私は伝えたいことです。それと、忘れたんでまた思い出したら言います。すいません。

清国会長 それでは時間をとっておきますので、よろしくお願いします。それでは、祖父江委員さんお願いいたします。

祖父江委員 臼杵市の地域子育て支援拠点「よいこのへや」から参りました祖父江と申します。もうこの問題はもうすごく難しくてですね、もうみんなわかってるんだけどもなかなかできないっていうことで私もなかなか意見がまとまらずちょっと難しいなと本当に感じております。たださっき目井委員がおっしゃったように、やっぱり

誰かに聞けば何とかなるっていう、そういう立場であると自分は思っています。ですのでこの会議に出席することもやっぱり大分県ですとかの、やっぱり方向性とか、今何が足りてないのか何が必要なのかっていうのを自分の中でしっかりこの情報を収集して、やっぱりこれは発信しなきゃいけないっていうのを自分の中でしっかり学ぶためにきているっていうのもあります。自分の資質向上のためそれから、利用者の人がこういうことに困ってるんだったら、こういう情報を発信したほうがいいなっていうふうに確実に届けるためっていうのもあります。私今3期目になるんですけども、ちょっとさっき首藤委員と話したんですけどこの応援パスポートのチラシをですね昔いただいたんです。これを「よいこのへや」にですね、これはいいなと思って貼ってたらですね、実際使ってみたっていう方がいらっしゃったんです。その方がまた、回転焼きを4つ買ったら5つ目がサービスでもらえたっていうのを、いろんなママに発信してやっぱり口コミですよ。やっぱりそういう形で情報って広がっていくんだなっていうのを体感したことがあります。なので、やっぱり私たちのような支援者側がですねしっかり行政と繋がって確実に知っておくっていうことと、あと私たちも全部を知ることとはできないので、とりあえず行政のこの方に聞いてみてっていうふうに連携ですねやっぱり連携っていうのが必要だなというふうに感じています。やっぱり、対面とか人が伝えることが大切っていうのはやっぱり心に残る情報だからだと思うんですね。なのでやっぱりそういう大切なことっていうのは、人から人に伝えていきたいっていうふうに思いますし、ちょっと私意見の方で書かせていただいたんですけども今臼杵市は子育てサポートブックっていうのがあって、これがすごく見やすいデザインと配色になっています。こういうものを作ったとしても例えばなんかいらぬ広告が入っていたりとか、色彩感とかデザインが統一されてなかったらやっぱり見るのも疲れてしまいますので、やっぱり情報発信する側としては、デザインとか統一性とか配色とかそういうことにも気をつけてやるべきではないかなというふうに感じています。ありがとうございます。

清國会長 ありがとうございます。それでは、川原委員さんお願いいたします。

川原代理委員 大分県私立幼稚園連合会で今日は立山先生の代理で来ました川原です、ひまわり幼稚園の園長を務めています。私代理ということで来んですが、この代理とつけば、何か少し離れたところから見ているというような形になってしまうんだなっていうことで反省をしているところです。今意見を言わなければいけないということで聞いてですね1つ、幼稚園ごととしてまず考えてみたときに、幼稚園の発信するお手紙っていうようなことに関しては、基本的には保護者の方は自園の保護者の方は多分いないと思うんですけど。今の保護者の方たちは文章が長いと読まない。はい。読んでくれないです、こどもたちの成長を文章で書いてもそれをイメージして受け取ってくれるよりは、逆に今映像だとか動画だとかで説明をして、もう1つが端的な言葉で、何が育っているのかっていうことを伝えていくっていうことがとても必要になってくるのかな。こちら精査しながら、保護者の方たちに伝えている順ではないと私たちの育てたいところだとか、育ってきたところが伝わっていかないっていうところが、見られるのかなというふうに思っています。本当ですねここ1、2年でですね、こどもたちの成長の記録だとかいうような、連絡ノートっていうところで2ページぐらいにわたって書いたりだとかしてるものに関しては、実際先生たちはものすごい成長の記録と思って書いてるけど全く読んでくれてなかったりだとか、するっていうことがわかった途端に、もうちょっと違う方法にしようかっていうような形で今変えていっています。少しずつ情報の伝達の仕方、お母さんたちであれば必ず携帯は持

ってます。手紙にして紙媒体にする事態で、もうそこ時点で置かれる、それを見返すことはないということがあるので、必ず持つてものに必ず届くようにしていこうというようにしています。またその中では、重要なものすぐに見れてネットで見れるもの情報拡散できないようなこと、こどもたちの個人情報があるのでできないようにするものとかいうことは園の中でも選んでます。特に危機管理マニュアルだとかいうようなものに関しては、PDFにしてお母さんたちの携帯にダウンロードしていただきってというような形にしています。これダウンロードすると、ネットがなくても見られるすぐ見られる、もしも地震があったときどこに逃げていくのかだとかいうようなことがわかるってというような重要度、こどもたちの育ちを伝えて個人情報が漏れないようにするものとかいうことも、園の中では分けて考えて情報発信の方をしています。で、1つ思ったのは、やはり保護者の方たちっていうか若い人たちっていうのは、なかなか見るって読む、で自分の行きたいところにたどり着けないっていうことが、今よくあるのかなあというふうに思うのであれば、ぜひ俯瞰図を作っていただいて。えんむす部だとかヤングケアラー、虐待だとかひとり親とかだとかいうような、今大分県が行っている情報をすべて俯瞰図にしていまして見える。そこからポンと押すとリンクが飛んでいくとか、そういうふうなものを作っていただければ、俯瞰図から自分の知りたい情報に詳しくどんどん入っていけるってというようなことがあるのか、今重なる部分が必要なんではないか、ここの情報とこの情報が1つ、分かれているところがあるんじゃないかとかいうことがあるのであれば、重なる部分をいっぱい作ってあげると見やすいのかなあというふうに思いました。もう1つ聞いていて一番思ったのは、この情報が全く届かない人たちってというのは本当に何%かいると思います。こどももそうですし親もそうですし、こちらが把握できていない人たちっていう人たちにどのように情報を伝えていくのかってというのが、やはり行政の役割なのかなというふうに聞いていて思いました。聞くとか情報が少しでも伝わるっていう人たちにしましては、まだ情報を与える側っていうかこちらが伝える側ってのはできると思います。ただ、全くシャットダウンしている人たちっていう社会とシャットダウンしてるこどもたち、親ですね、とかひとりの方たちとか、そういう人たちをどういうふうにその支援につなげていくなどとか、情報行政が行っている支援を伝えていくのかというのは、とても大切なのかなっていうのを聞いていて思いました。以上です。

清国会長 どうもありがとうございました。それでは田中委員さんお願いいたします。

田中委員 大分県認定こども園連合会の代表として来ました田中と申します。私の方としましては意見にも書かせていただいたんですけども、県としてはすごく「子育てのタネ」だったりとかのポータルサイトっていうのは、素晴らしいものがあるなというふうに個人的には思っております。また様々なコンテンツとかですね、LINEもそうですし、InstagramとかFacebookとかいろいろされていてとても充実してるんじゃないかなというふうに個人的には感じているんですけども。これが市町村にいったときにですね、市町村によっては子育て支援のポータルサイトがなかったりとか、あるところはきちんとあったりとかするんですけども、そういった部分で少しまちまちになってるところあるんじゃないかなと、やはり身近な市町村、自分たちの子育てするにおいて、やっぱり一番身近な部分っていうのはやっぱり市町村になってくると思いますので、そういった市町村のポータルサイトもしっかりと「子育てのタネ」に見習ってですね、きちんとしたものを統一して作り上げていってはどうかなと。そのあとです、市町村と今度は我々こども園だったり幼稚園だったり保育園さんだったり

すね、そういった部分との連携だったりとか、あと各事業所さんいろんな子育てこどもに関わる事業所もそうですけど、また企業さん、こういった方々と市がですねやはり連携をとってやっていくと、そうすることによって少しずつ情報が落とし込んでいけるんじゃないかなというふうに思ってます。ただ発信するだけだとどうしてもやっぱり、そんな一方的に投げてしまって終わりになってしまいますので、今度は逆に、我々そういったこども園とかですね、いろんな事業所とか企業さんとかから今度は情報を吸い上げて、アンケート調査をしたりして、そして今度はそれをまた県の方に届けていくとまた見直しを図って実際にまた今度改善してっていうそういったPDCAサイクルをですね、まわしていくことによって、より良い効果的な情報発信に繋がっていくんじゃないかなというふうに思ってます。子育て世代の方々はですねやはり興味っていうか自分たちの、やはり子育てするにどうしたらいいとか悩んだりとかするので、自分たちからそういったものを取りに行ったりとかすると思うんですけども、そうじゃない世帯の方々だったりとかいう人たちにもですね、ちょっと悩んでるんだけどってなったときに、「子育てのタネ」っていうサイトがあるから、そこを見たらいいよって言って普通に、そういった会話が繰り広げられるような県になっていければ、また変わってくるのかなというふうに思っております。以上です。

清國会長 どうもありがとうございました。それでは、西山委員さんお願いいたします。

西山委員 大分県公認心理士協会の西山と申します、いつもお世話になっております。お手元の資料13番で事前に出ささせていただいたものを見ていただけるかと思いますが、協会の情報発信はとてもお寒い状況があります。今日冒頭行政説明でスクリーンに映し出されたものを見て、テレビCMやれてないな、YouTubeできてないな、Web広告もやれてないなというなんか、すごいどよんとした気持ちになりました。情報発信特にデジタルデバイスを使った情報発信については、当協会は情弱団体だなというふうにちょっと落ち込んだんですけども。ただいろいろな委員さんのお話を聞いて、必ずしもそうじゃないな、ちょっと活路あるかなという部分がありますのでちょっと感想にもなるんですけども。今日いろんな委員さんから言われた言葉の中では、信頼ある情報が大事であるとかですね。こどもを育てるのはアナログであるとかですね、そういうところは当協会の公認心理士の仕事っていうのは主にアナログでございます。言葉のやりとりとかそういうことですので、そういうところは協会として進められるんじゃないかなと思いました。特に姫野委員が言われました、母親同士のおしゃべりが大事っていうところで、お母さんたちお父さんも入るかと思うんですけどいろんな情報が、SNSとかも含めて入ってくると思うんですけど。おしゃべりによってそれが精選されてるんじゃないかなあというイメージを持ちましたので、本協会が生き残っていくとかその活路を見いだすにはそのアナログであるとか、情報の精選とかそういうことにも、何か力を入れられるといいのかなということを思いました。たくさんの刺激をいただきましてありがとうございました。

清國会長 どうもありがとうございました。それでは二日市委員さんお願いいたします。

二日市委員 大分県社会福祉協議会から参加させていただいております二日市です、よろしくようお願いいたします。いろいろお聞きした上で3つ申し上げたいので手短かにします。1つ目はですね、私が事前に意見で16ページに出させていただきました。今

日の行政説明などを聞いてもう皆さんおっしゃってるように、いろんな手段でもう様々な媒体で情報発信をされているんですけども、なかなかそこまで行き着けないっていう実態があると思いますので、ここはアナログで、婚姻届とか出生届とかを出された際にA4の表裏ぐらいのコンパクトな情報で、できれば冷蔵庫に貼れるようなものをこんなときはここに聞きましょうとか、このホームページに行きましょうみたいなものをお配りして、もしかしたら同じ方に2回配ってもいいと思うので、そういう保存版をアナログでやったらどうかというのを提案しました。2つ目です。今日いろいろお話をお聞きして、やはり信頼できる人からの情報が大事だということをもっと本当に実感としてもそう感じます。なのでぜひですね、専門職とか支援者の方々が、自分の専門以外の子育て支援とか、そういうことがわかるようなページを作っていただきたい。それは、詳しいことはそれぞれの団体のホームページに行けばいいのかもしれませんが、一覧的にわかるとありがたい。要するに、例えば助産師さんが他のことを聞かれたときに見て、それはここに聞いたらきっといいと思うよっていうようなことができるような、「子育てのタネ」のページがプラットフォームだとすれば、そこに専門職支援者向けのページを作っていただいて、そこに聞けば、そこを見ればわかるというのはいかがでしょうか、それが2つ目。3つ目は、同じく「子育てのタネ」のページに、団体を紹介するページ任意の団体でも、さっきの話にも出ましたけれども、こういう活動をやってます参加しませんかとか、こういう相談を受けてますっていうような団体を紹介するページがあってもいいのかなと感じました。以上です。ありがとうございます。

清國会長 ありがとうございます。それでは細井委員さん、お願いいたします。

細井委員 大分県社会福祉士会、それから豊後大野市教育委員会、それから県立学校の方でスクールソーシャルワーカーをしております細井と申します。よろしくお願ひします。私からの意見はもうほとんどもう皆さんから出たものと同意なんですけれども、もう激しくそうだよなそうだよなと思いながらお話を伺ってました。特に、やはり情報が届かない方への支援というのが私どももスクールソーシャルワーカーの仕事としてはやはり大きいので、届かない方或いは何となく届いても、それを理解できない読解できないその情報を扱えない方っていう方がやはりいらっしゃるんですね。で、そういった方の支援っていうのはやはり人を介してないといけないかなと思うので、先ほどからも相澤先生からしかり皆さんからもご意見があったように、専門職で、専門職がやはりジェネラリストであるほうがいいなと思うんです。専門福祉関係、或いは教育であるのかもしれませんが、その専門職がある程度のことを知ってつなぎ先がわかるような、そういった手引きがあってもいいかもしれませんが、そういったジェネラリストの養成っていうのが、大事になってくるのかなあっていうふうに思ってます。あともう1つが、この会議でちょっと叱られてしまうかなと思いながら思うんですけども3期目になってですね。こどもの応援っていうことでお話を聞く話をしてるんですけど、こどもは何歳までのことをここは扱ってるのかなっていうのをいつも思っていて、私がその守備範囲が小学校1年生から高校生ですね、在籍のお子さん或いはちょっと大人の方もいますけれども、該当になるので18と考えたときに、この中の情報の大半が妊娠期から小学校ぐらいの情報が多いなあというふうに感じていて、中高生の保護者の方或いは当事者の方が、見たい情報ってヤングケアラーぐらいかなあと、あとひとり親の方が見たい情報かなあというのをちょっと感じてます。最近あったケースでですね高校生のお子さんなんですけれども、非常に学習も、それから部活動も優秀なお子さんなんですけれども経済的に厳しくて、いろんな

事情があつて急に厳しくなつてしまつて、ご本人がお母さんにも相談ができずに、一生懸命自分で奨学金とか調べてるんです。給付型のものがないかって調べていくんですけど。いよいよ自分では見つけれない。こどもとか子育てとか教育とか見ると、どうもやっぱり小さいお子さんの情報が多くて自分が欲しいものがない。高校の生活を支えられるもの授業料無償なんですけれども。それ以外に部活動費であるとか、それから学校の中での様々な教育費は実費でかかってきます。そこに、児童扶養手当等も受けてらっしゃいましたけれどもそれではやっぱり追いついていかないっていう現状を何とか打開したくて、頑張つてたけどいよいよわからなくて、もうたまたまに担任に相談して担任からソーシャルワーカーに繋がってきたというようなケースがありました。本当は言いたくなかった、自分で何とかしたかった家庭の中で何とかしたかったけど、わからない、情報がないんですっておっしゃっていました。調べていて本人さんやご家族が願うような情報は非常に見つかりにくかったし、思うようなものはなかったというのが現実的なところであつて、今後どうしていこうかっていう部分で、そこに代わるものの情報を提供することができたんですが、やはりそういったお子さんもこどもではあるので、やはり中高生とか或いはそれを育ててる保護者の方にも有益な情報もちろん学校を介してプリント等はもらつてはいます。ホームページにも載つてはいますけど、届いていないっていうのがやっぱり現状でもあるので、届きやすいようにそこら辺にも、何かホームページとかですら開示していただけると大変ありがたいなあとというふうに思います。また携わる者として、もっともっとスキルアップしないといけないなっていうのを、非常に反省とともに感じております。以上です。

清国会長 ありがとうございます。それでは、山縣委員さんお願いできますか。

山縣委員 私は学生の立場から、自分の意見を述べさせていただきたいと思います。現状として、子育て支援の情報を出しても、必要な家庭に届いていないということが多く感じます。また情報がバラバラになりがちで、自分に必要な情報をゲットするまでに時間がかかったりとか必要なタイミングで、欲しい情報が得られてなかったりという現状にあると思います。自分が思ったんですけど、子育てに関する情報は、学生とか自分が子育てをするときじゃないと見ないですし、興味を持つことがないので、その前に興味を持つようなきっかけを作つて、情報を事前にこういうところにこういう情報があるとかをわかるようにしていればいいんじゃないかなと思います。それと支援対象かどうかを瞬時にチェックできるようにすることと、必要なタイミングで対象の方に何らかの形で情報が届くようにすることが、有効かなと思いました。子育て中じゃなくても目に届きやすい情報発信をすれば、自分たちが将来子育てをするときへの安心にも繋がると思います。私もスマホをよく使うんですけど、サイトとかは結構複雑で、どこに飛んだらいいのかっていうのがわからないことがよくありますので、わかりやすくするっていうのがとても重要な手段になると思います。なので、通知とかがしっかり来る日常的に使うLINEとか、写真とかを使って視覚的にも理解しやすいように、日常的によく使うアプリで情報発信をするのが有効的だなと考えました。以上です。

清国会長 ありがとうございます。それでは最初に口火を切つていただいて、ちょっと時間も気にしながら、お発言をいただいた相澤委員にちょっと補足も含めてお願いしたいと思います。

相澤委員 発言の機会をいただきましてありがとうございました。皆さんの発言を聞いていて、やっぱり情報発信ってのは基本的に一方的な情報提供ではなくてですね、いかに双方向の繋がりづくりをする、そういう発信でなければいけないのかなっていうふうに思いました。やっぱり情報を発信して、受け手側がエンパワーメントされるようなそういう内容であるべきではないかなというふうに思ってますんで、そういう意味ではわかりやすさと安心感みたいなのが情報の中にあって、例えばお子さんを育ててくれるあなたへとか、少し助けになる制度があります使っていただけませんかっていうような、そういう相手のことをきちっと尊重するような、そういう関係づくりを作るような情報発信ってのが、次に繋がる発信じゃないかなというふうに思って皆さんの意見を聞かせていただきました。どうもありがとうございました。

清國会長 首藤さん思い出されましたか。

首藤委員 ありがとうございます。今本当相澤先生がおっしゃったようにですね、私この会議のお話を聞いてて、情報発信するっていうのは発信する側が何月何日にこんなことありますよとか、こんな仕組みがありますよっていう一方的な思いをこう言ってるんだなあって思っただけ。それはそれで必要なんですけど、先ほどからぼつぼつと出ている困りを抱えている人の情報とか課題とか、こんなことを求めているんだけど、どうやったら方法が解決できるんだとかいう、そういうところに何か窓口があるとかそういうその情報を拾う手段っていうのが、何かこう必要なんだなってそれは先生がおっしゃったような双方向っていうことじゃないかなあと思ったんで、それをお伝えしたかったです。ちなみに私、孫が2歳と今度生まれてまだ1ヶ月にもならない子がいるお嫁さんに、この「子育てのタネ」を知ってるかって今LINEで送ったら、「初めて見ました」って言うてるので、帰りに家に寄ります。

清國会長 どうもありがとうございました。私もちょっとだけこれまでのご発言を伺って感じたところを、2点ほどですかね。1点目は、先ほどエンパワーメントっていう言葉も出たんですが、以前はなんかエンパワーメントエンパワーメントとか言ってますね、力をつけてもらわなきゃっていうようなことが多かったように思うんですけど、それって何か大変な役割を担ってみたい感覚に受けとめられていたようなこともあったかな。力つけられる人は力のある人で、力のない人には力がなかなかこうつけるのは難しいとかいうようなところで、それも分断とか格差とかを生み出していたのかなっていうふうに思ったときに、口コミでいっぱい広がる。口コミで幸せが広がるのであれば、その口コミで広げられるっていう支援の仕方も、ですから、保護者の方が、いや私は受け取る側だけではなくて、私がいい情報を伝えるっていうことも、支援に繋がってるんだっていうような、何か軽い何らかのお役に立てるっていうような気持ちが芽生えるっていうことが、当事者としてというか子育ての当事者ではなくて、皆さんとともに子育てをしているっていう当事者に繋がるのかなというようなことを思いながら、いろんな話が繋がってきたなというふうに思いました。もう1点なんですが、やはり受け手が何を求めているか何が困っているかっていうような情報を、とらまえないければならないなっていうか、そのアンケートのことが話題として出て参りましたが、もう少しアンケートの中身っていうところを精査することによって、今行政として、私らが大学として何をしなければならなかったかということが見出せるような、そんなことが必要なんだろうなあと。もちろんそういう努力はなさっていると思うんですが、もう少しその当事者の意見を伺いながら作れば、もっともっと良いものになるのかなというふうに思いました。以上2点、私が今回皆さん方の

ご意見を伺いながら、きゅうっとう自分の中に吸収できたところかなというふうに思いました。非常にこういう時間になって参りましてですね、皆様方からご意見をいただけたということもございますし、質の高い情報交換ができたのではないかなというふうに思っておるところでございます。時間的にはそういうことなんですが、最後になるかもしれませんが。

山口委員 2度目を失礼します、「おおいたパパくらぶ」の山口です。まずですね僕が子育てとか悩んだときってというのは、まず公式LINE、県の公式LINE開くことが多くって、そこで開くとやっぱメニューがあって、川原先生がおっしゃったように最初のタップのメニューのところに俯瞰図みたいに入っていける場所があるんですけど、ここのアップデートがされてるかっていうのがちょっと気になりました。というのが入っていくと途中で見つかりませんでした。ていうページが正直あります。大体今回お出しいただいたパタハラの問題とかも、実際にイクボスのページにはあるんですよね。そういう僕もちょっと出させてもらってますけど、それがここには繋がってない。で、初産プレの話にありましたけど、プレパパプレママの教室ってのは定期的に行われてるんですけど、僕も講師として呼びいただいたことあるんですけどやっぱ参加率が異常に少ないんですよ。ていうことはやっぱりその情報が行き渡ってない。それも大分県のこの公式LINE見られてる方、使えるんじゃないかなと思った理由がですね、実は今日午前中親子防災講師として講座をしてきたんですけど珍しいことでおじいちゃんおばあちゃんばかりの中に、赤ちゃんお母さんが何組かいらっしゃって聞いたら、インスタやってないっていうお母さんもやっぱりいらっしゃる。ってときに、公式LINEとかLINEだったら見る。やっぱLINEの利用率は高いかなというふうに思ったのでここのアップデートができればと思いましたし、学生さんがそのパパとかママとかの感覚がとか妊娠とかあれば、やっぱこういう事業所とか委託されたりとか、我々でよければ呼んでいただければ喜んで、こんな白髪の中年のおっさんよければ大学でお話させてもらいますのでっていうものもありますので、いわゆる横の繋がり人と人としてですねいければなと思いました。というので、公式LINEあたりのチェックをしていただけるとありがたいかなというふうに思いました。

清国会長 どうもありがとうございました。それでは時間でもございますので、協議につきましては、協議といいますか意見交換につきましてはこれで終えさせていただきたいと思います。皆様方のご協力に感謝申し上げます。それでは進行を事務局にお返しいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 委員の皆様には、大変貴重なご意見ご提言をいただき、誠にありがとうございました。最後に佐藤知事からよろしくお願いいたします。

佐藤知事 大変貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。最初は、必要な情報の正誤や偏り、タイミングをもっと早くするべきだといった議論から始まりました。しかし、情報についてはSNSやサイトなど、非常に発信力がありますが、それぞれが十分に伝わっていない片方向のものになっているのではないかと、また、中身が十分にアップデートされていないのではないかとというご意見もありました。さらに、俯瞰的に見る必要があるというご意見もありました。そのため、県や各市町村、各団体のそれぞれのサイトをさらに繋げて、連携することが必要だと感じました。も

う1つは、プッシュ型の情報提供についてです。LINEの活用などもその一つかもしれませんが、必要な情報を必要なところに届けるというご提言があったと思います。また、それに関連して、一方通行ではなく、双方向のコミュニケーションが必要だという点も挙げられました。結局、これは相談事業に関連しています。例えば、民生委員や児童委員の皆様、学校や病院、それから各団体で活動されている方々が相談を受けることによって、ニーズが何かということがわかり、伝わりにくい人々に対して情報を伝えていくことが行われているということだと思います。そういう活動を県も含めて例えば、児童相談所やこども家庭支援センターでは、児童虐待への対応や、県や市町村が実施したヤングケアラーの実態調査等がありますが虐待を誰に相談していいかわからなくて、傷やあざがあったりしてはじめて学校や病院で見つけてもらったり、ヤングケアラーのこどもたちは自分がヤングケアラーだという認識がないことが多いです。そのため、やはり双方向のコミュニケーションだけでなく、常にアンテナを高くして、こどもたちを見守る体制が重要だと感じました。これによって、本来伝えるべきこどもたちに情報が届くことになるのかもしれませんが。こうした相談活動については、今日ご出席の皆様や多くの方々から支えていただいています。その中で、必要な情報を伝えていくこと、そして伝わっていないところを見つけ出して、それを伝えていくことが非常に重要だということを改めて感じました。また、先ほどご指摘いただいたリンク先の状況や、コンテンツの更新、情報伝達の方法、プッシュ型の活用など、多くのご提言をいただきましたので、事務局の方でも検証や検討を重ねていく必要があると感じています。特に、アンテナを高くすることが重要だと認識しています。引き続き、皆様にご協力をお願い申し上げます。本当に、ありがとうございました。

事務局　ありがとうございました。本日発言しきれなかった点などございましたら、後日でも、事務局にご連絡いただきますようお願いいたします。次回の県民会議は、来年2月16日、月曜日の午前中に予定しております。詳細につきましては別途ご案内をさせていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。以上をもちまして、令和7年度第2回おおいた子ども・子育て応援県民会議を終了いたします。ありがとうございました。